

事務事業名	誘客宣伝事業費										担当課	部課名	経済部観光課			
予算科目コード	会計	01	款	08	項	02	目	02	細目	001	説明	01	課等の長	木村 嘉文	電話	3421

1. 事業概要

事業開始年度	平成 12 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務
事業概要	国内外から広く観光客を集客するため、観光宣伝事業の実施、民間団体等が実施するイベントへの参画、観光ホームページの更新等により、誘客宣伝事業を行う。				
事業目的及び必要性	本市における観光資源等について広く宣伝活動を行うことにより、多くの観光客の集客に努め、地域振興を図ることを目的とする。 本市のもつ観光資源等を有効的に活用することにより、本市への観光客を広域にわたり集客する上で必要である。				
対象	4. その他	観光客	約	13,357	千人
根拠法令等	その他(要綱等) 藤沢市観光振興事業補助金交付要綱				

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)

まちづくりコンセプト	重点施策名
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input checked="" type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由)・持続可能な観光業を促進するため、観光宣伝事業や民間団体等が実施するイベントへの助成。 ・効果的な誘客宣伝を図るため、スマートフォン使用者のGPS情報による動態調査の実施。	地域経済循環を高める経済対策の推進
	指針体系コード
	4-3-11
2030年又は事業終了時の望ましい姿	その他の計画との関連
「選ばれ続ける観光地」として、国内観光とインバウンドの両輪により、観光立市を実現する。	「藤沢市観光振興計画」(平成23年度から実施、平成26年、29年に改訂)のほか「藤沢市観光経済再活性化プラン」に基づいている。
	貢献する主なSDGsのゴール
	8 働きがいも経済成長も
	12 つくる責任 つかう責任
	17 パートナリーシップで目標を達成しよう

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」

市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市内の観光に活力があると感じますか？	3.12 点	3.18 点	3.23 点	3.37 点
	点	点	点	点

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額 (千円)	主な事業内容
29,890 千円	旅費	30 千円	特別旅費
	役務費	220 千円	撮影手数料
	委託料	26,170 千円	観光宣伝事業委託
	使用料及び賃借料	2,640 千円	観光客動態調査
	負担金補助及び交付金	830 千円	地域観光振興事業補助金等
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額 (千円)	主な事業内容
50,096 千円	旅費	96 千円	特別旅費
	役務費	220 千円	撮影手数料
	委託料	44,268 千円	観光宣伝事業委託
	負担金補助及び交付金	5,512 千円	地域観光振興事業補助金等

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	1.25人工	1.25人工	1.25人工	1.25人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00人工	0.00人工	0.00人工	0.00人工
非常勤職員	0.00人工	0.00人工		
合計	1.25人工	1.25人工	1.25人工	1.25人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			0.10人	0.10人
---------------	--	--	-------	-------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度事業実施内容		国内外から広く観光客を集客するため、観光宣伝事業の実施、旅行情報誌のノウハウを活用した新たな冊子の作成や観光ホームページの作成等により、誘客宣伝事業を実施した。【観光親善大使事業(第3代ふじさわ観光親善大使「つるの剛士」氏による事業協力、本市PR)、「湘南江の島Walker」発行、江の島・藤沢宝探し事業「エノシマトレジャー」「フジサワトレジャー」、マスメディアによる観光宣伝、観光ホームページ宣伝事業、北部観光振興事業、外国人観光客誘致事業(SNS情報発信、多言語WEBサイト情報発信等)、観光客実態調査事業、歴史発掘プログラム及び歴史人WEB記事制作事業、新春藤沢・江の島歴史散歩事業補助金「七福神めぐり」ほか】					
成果目標	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
	年間観光消費額	百万円	99,080	102,468	63,589	65,766	
	年間観光客数	千人	19,592	20,082	12,788	13,080	
	観光消費単価(日帰り)	円	4,710	4,757	4,805	4,853	
参考							
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	国内観光キャンペーン	リーチ数	-	-	59,561	425,335	
	海外観光キャンペーン	リーチ数	-	-	5,969,138	1,410,274	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	年間観光消費額	百万円	81,154	93,495	58,604	60,351	
	年間観光客数	千人	18,392	19,299	11,558	13,357	
	観光消費単価(日帰り)	円	4,516	4,517	4,729	4,101	
数値で表せない効果							
(1)藤沢市の知名度アップ (2)地域ブランド力の向上 (3)観光産業の活性化 (4)観光資源の知名度アップ							

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
コスト	行政費用(フルコスト) A	55,928	63,847	68,972	41,297
	(1)現金を伴う支出 (千円)	56,063	63,836	68,977	41,295
	事業費(支出済額)	44,018	51,688	58,078	29,890
	償還金利息	0	0	0	0
	人件費合計(①+②+③)	12,045	12,148	10,899	11,405
	①常時勤務職員等の給与等	11,459	11,426	10,084	10,651
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	140	232
	③退職金相当額	586	722	676	522
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-135	11	-5	1
	①減価償却費	0	0	0	0
	②退職給与引当金繰入額	-135	11	-5	1
	③不納欠損額	0	0	0	0
	④その他( )	0	0	0	0
	行政収益(事業収入) B	14,908	8,936	10,631	18
(3)現金を伴う収入 (千円)	14,908	8,936	10,631	18	
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0	
②使用料及び手数料 d	11,163	6,716	3,596	10	
③国庫支出金	0	0	0	0	
④県支出金	3,745	2,220	7,035	8	
⑤その他( )	0	0	0	0	
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0	
収入未済増減額	0	0	0	0	
収支差額(純費用)A-B E	41,020	54,911	58,341	41,279	
分析指標	項目	年間観光消費額	年間観光消費額	年間観光消費額	年間観光消費額
	F	81,154	93,495	58,604	60,351
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	689.16	682.89	1,176.92	684.27
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	95.55	126.80	134.08	94.04
受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.20	0.11	0.05	0.00	

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドや団体旅行などの回復には時間がかかると見られるため、社会情勢を注視しつつ、早期の観光経済の回復と再活性化の対策を講じる必要がある。
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の費用対効果の検証を行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会やウィズコロナ・ポストコロナを見据え、柔軟かつ機動的に対応するため、次期観光振興計画策定までの暫定的な方針として策定した、藤沢市観光経済再活性化プランに基づき、地域経済の下支えを図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会情勢や観光を取り巻く環境が大きく変化中、「選ばれる観光地」であり続けるため、引き続き「ニューノーマルな観光スタイル」を推進する。</li> </ul>
(3) 令和3年度末時点の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、観光のマイクロツーリズム化、インバウンドや団体旅行などの回復には時間がかかると見られるため、社会情勢を注視しつつ、早期の観光経済の回復と再活性化の対策を講じる必要がある。</li> <li>・位置情報が含まれるビッグデータを活用し、観光の傾向を把握、分析ができるようになったため、持続可能な誘客が行えるよう、本市の実情に即した効果的な観光戦略を策定、検証する必要がある。</li> </ul>
(4) (3)解決のための今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の費用対効果の検証を行い、ウィズコロナ・ポストコロナを見据え、柔軟かつ機動的に対応するため、次期観光振興計画策定までの暫定的な方針として策定した、藤沢市観光経済再活性化プランに基づき、地域経済の下支えを図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会情勢や観光を取り巻く環境が大きく変化中、「選ばれる観光地」であり続けるため、引き続き「ニューノーマルな観光スタイル」を推進する。</li> </ul>

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	<input type="radio"/> ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	<input type="radio"/> ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの <input type="radio"/> イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	<input type="radio"/> ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	<input type="radio"/> ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 <input type="radio"/> エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	<input type="radio"/> ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	<input type="radio"/> ア=10%未満 <input type="radio"/> イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上
		(3) 事業の種類	
		(4) その他の事業特性	
		1. 市民等サービス	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	<p>・日本政府観光局(JNTO)の統計によれば、2013年に訪日外客数が初めて1,000万人を突破して以降、2018年に3,119万1千人、2019年に3,188万2千人と増加していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年の訪日外客数は411万5千人(前年比 -87.1%)、2021年は24万5千人(前年比 -94.0%)と大幅に減少した。</p> <p>・観光のマイクロツーリズム化、インバウンドや団体旅行などの回復には時間がかかると見られるため、社会情勢を注視しつつ、観光経済の回復と再活性化の対策を講じる必要がある。</p>	
他市等の事例	<p>ホームページやSNS等を活用し、地域の特色や観光資源を市外・県外へPR</p>	
市民ニーズ	把握方法	<p>外国人観光客実態調査(オンラインアンケート) (1回)2021年11月16日~2021年12月1日 合計回答数590件</p>
	把握内容	<p>「居住地」、「出身国・地域」、「性別」、「年齢(世代)」、「誰と一緒に来たか」、「藤沢市のどの写真が魅力的か」、「イベントへの参加意欲」、「アクティビティへの参加意欲」、「どの新イベントが魅力的か」、「お土産購入頻度」、「お土産購入目的」、「購入したいお土産」、「お土産購入金額」、「観光地のサービスへの要望」、「海外旅行中のネット接続方法」、「日本での食事や買い物時に希望するサービス」、「来訪前の情報収集方法」、「観光情報源」、「アプリの利用状況」、「藤沢市公式観光ホームページの認知度」、「SNSの利用状況」、「日本旅行の時期」等</p>
	対応等	<p>藤沢市観光振興計画の基本方針に「観光客を迎えるおもてなしの体制づくり」のほか、「外国人観光客誘致の推進」、「東京2020大会の開催地としてのおもてなしの体制づくり」を掲げ、各基本方針の中に、戦略プロジェクトとして位置付けている。</p>

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	<p>年間観光客数(海水浴客除く)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、対前年比13.1%増加した。7~9月観光客数(海水浴客除く)は、まん延防止等重点措置区域への指定及び緊急事態宣言の発令により、イベントの中止、観光施設・海水浴場の閉鎖が相次いだため、減少した。10~12月観光客数は、全国的に感染者数が比較的落ち着いてきたことから、増加した。また、「湘南キャンドル」、「湘南の宝石」といった夜間のイベントが好評であり、12月のサムエル・コッキング苑入場者が過去最大となった。</p> <p>また、官民連携による誘客キャンペーンや湘南藤沢フィルム・コミッション事業でのメディア露出による集客効果など、通年での誘客に結びつく複合的事業戦略の成果として、県内でも屈指の観光客数となっている。</p>	
今後の方針	まちづくりテーマ	④ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	実施手法の見直し
	<p>今後の事業展開及びその財源の在り方等については、独自の事業カルテシートに基づく効果検証をもとに、藤沢市観光振興計画の暫定版として策定した藤沢市観光経済再活性化プランにおいて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後及びウィズコロナ・ポストコロナにおける観光経済の再活性化策として位置づけ施策を推進した。</p> <p>当面はマイクロツーリズムのフェーズが想定されることから、引き続き誘客手法の磨き上げを行う必要がある。</p> <p>また、観光客数が前年度比で15.6%増加した一方、年間観光消費額の増加率は3%にとどまっており、今後は消費単価を増加させる施策を実施するとともに、観光地としての魅力を発信し続けながら、コロナ禍で落ち込んだ観光業において、早期の経済回復が図れるよう「消費する観光」や「宿泊を伴う着地型観光」に繋がるよう、誘客に向けた具体的アクションプランに取り組んでいく。</p> <p>このほか、インバウンドについては、渡航制限が解除される際に出遅れることがないよう、これまでの海外誘客活動で築いた現地旅行会社等と連携した観光PRや在日外国人のインフルエンサーの招請など、渡航制限の中でもできる効果的な情報発信に取り組む。</p>	

9. 部長確認欄

部名	経済部	氏名	饗庭 功	確認日	2022/9/2
----	-----	----	------	-----	----------

事務事業名	観光施設整備費										担当課	部課名	経済部観光課			
予算科目コード	会計	01	款	08	項	02	目	04	細目	001	説明	02	課等の長	木村 嘉文	電話	3421

1. 事業概要

事業開始年度	令和 3 年度	終了(予定)年度	令和 4 年度	事業の性質	任意自治事務
事業概要	本市の観光施設の核となっている江の島サムエル・コッキング苑のリニューアル整備(第一工区)を実施する。事業実施にあたっては、コスト縮減及び工期短縮の観点から、同施設の指定管理者である江ノ島電鉄(株)と協定を締結し、同社が一体的な工事を行い、市が応分の費用を負担する。 なお、事業実施にあたっては、市内外から幅広い支援、協力を募るため、クラウドファンディングを活用する。				
事業目的及び必要性	入苑者数は増加傾向にあるが、認知度の高いイベントである「湘南キャンドル」や「湘南の宝石」が行われる秋・冬の夜間には来場者が多い一方、それ以外の時期や昼間の来場者が課題となっている。昼間の誘客を促進する施設整備により、観光客の分散化や消費型観光を促す。				
対象	4. その他	観光客	約	13,357	千人
根拠法令等					

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)

まちづくりコンセプト	重点施策名
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input checked="" type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由)・将来に渡り魅力ある観光地とするため、本市の観光施設の核となっている江の島サムエル・コッキング苑のリニューアル整備。 ・ファミリー層への魅力発信となる施設整備。 ・幅広い支援・協力を募るため、クラウドファンディングを活用。	地域経済循環を高める経済対策の推進
	指針体系コード
	4-3-21
2030年又は事業終了時の望ましい姿	その他の計画との関連
ファミリー層への魅力発信となる施設となり、課題となっていた昼間の観光誘客が図られ、観光客の分散化や消費型観光が促進される。	「藤沢市観光振興計画」(平成23年度から実施、平成26年、29年に改訂)に基づいている。
	貢献する主なSDGsのゴール
	8 働きがいも経済成長も
	12 つくる責任 つかう責任
	17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」

市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市内の観光に活力があると感じますか？	3.12 点	3.18 点	3.23 点	3.37 点
	点	点	点	点

令和3年度 支出済額  85,331 千円	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	委託料	831 千円	江の島サムエル・コッキング苑リニューアル整備クラウドファンディング委託料
	負担金補助及び交付金	84,500 千円	江の島サムエル・コッキング苑リニューアル整備事業(第一工区)負担金
【参考】 令和4年度 予算額  114,090 千円	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	委託料	1,590 千円	江の島サムエル・コッキング苑リニューアル整備クラウドファンディング委託料
	負担金補助及び交付金	112,500 千円	江の島サムエル・コッキング苑リニューアル整備事業(第二工区)負担金

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	0.75人工	0.75人工	0.75人工	1.25人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00人工	0.00人工	0.00人工	0.00人工
非常勤職員	0.00人工	0.00人工		
合計	0.75人工	0.75人工	0.75人工	1.25人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			0.00人	0.10人
---------------	--	--	-------	-------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容		大人から子どもまで幅広く楽しめるよう、新たなライフスタイルの提案とシティプロモーションの融合を図るため、リニューアル整備（第一工区）を実施した。（施設内における観光イベントの実施に影響しないよう、二工区に分けて実施予定）					
成果 目標	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
	年間観光消費額	百万円	99,080	102,468	63,589	65,766	
	年間観光客数	千人	19,592	20,082	12,788	13,080	
	観光消費単価（日帰り）	円	4,710	4,757	4,805	4,853	
参 考							
活動 実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	進捗率	%	100	100	0	100	
成果 実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	年間観光消費額	百万円	81,154	93,495	58,604	60,351	
	年間観光客数	千人	18,392	19,299	11,558	13,357	
	観光消費単価（日帰り）	円	4,516	4,517	4,729	4,101	
数値で表せない効果 (1)藤沢市の知名度アップ (2)地域ブランド力の向上 (3)観光産業の活性化 (4)観光資源の知名度アップ							

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
支 出	行政費用(フルコスト) A	21,843	145,359	9,229	98,246
	(1)現金を伴う支出 (千円)	21,924	142,576	6,456	96,736
	事業費(支出済額)	14,697	135,287	0	85,331
	償還金利息	0	0	0	0
	人件費合計(①+②+③)	7,227	7,289	6,456	11,405
	①常時勤務職員等の給与等	6,875	6,856	6,050	10,651
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	0	232
	③退職金相当額	352	433	406	522
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-81	2,783	2,773	1,510
	①減価償却費	0	2,776	2,776	0
	②退職給与引当金繰入額	-81	7	-3	1,510
	③不納欠損額	0	0	0	0
	④その他( )	0	0	0	0
	行政収益(事業収入) B	14,697	115,995	0	71,847
収 入	(3)現金を伴う収入 (千円)	14,697	115,995	0	71,847
	①分担金及び負担金 c	0	0	0	0
	②使用料及び手数料 d	6,988	3,025	0	0
	③国庫支出金	0	0	0	0
	④県支出金	5,509	25,306	0	0
	⑤その他( 地方債・寄附金 )	2,200	87,664	0	71,847
	(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0
収入未済増減額	0	0	0	0	
収支差額(純費用)A-B E	7,146	29,364	9,229	26,399	
分析 指標	項目	年間観光消費額	年間観光消費額	年間観光消費額	年間観光消費額
	年間観光消費額 F	81,154	93,495	58,604	60,351
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	269.15	1,554.72	157.48	1,627.91
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	16.65	67.81	21.21	60.14
受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.32	0.02	0.00	0.00	

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	令和2年度においては、コロナ禍における業務継続計画の見直しにより、当事業の実施を見送ったが、実施にあたって財源確保は大きな要素の一つとなることから、クラウドファンディングによる効果的なプロモーション手法や魅力的なリターンの検討が必要である。
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	実施にあたっては、他のクラウドファンディングの成功例を研究するなど、引き続き、クラウドファンディングにおける効果的なプロモーション手法や魅力的なリターンの検討を進める。
(3) 令和3年度末時点の課題	クラウドファンディングの実施にあたっては、多くの支援を獲得するための工夫が必要である。
(4) (3)解決のための今後の取組	効果的なプロモーション手法及び魅力的なリターンを検討・実施し、観光客の受入環境の整備を図る。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	○ ア＝法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ＝市の条例等で規定されている事業 ウ＝県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ＝国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ＝法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	○ ア＝国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ＝国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ＝国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ＝本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ＝本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	○ ア＝恒久的に実施するもの イ＝年限の定めのないもの ウ＝時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ＝時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ＝時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	○ ア＝300,000千円以上 イ＝100,000千円以上～300,000千円未満 ウ＝30,000千円以上～100,000千円未満 エ＝5,000千円以上～30,000千円未満 オ＝5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	○ ア＝80%以上 イ＝50～80%未満 ウ＝30～50%未満 エ＝10～30%未満 オ＝10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	○ ア＝10%未満 イ＝10～30%未満 ウ＝30～50%未満 エ＝50～80%未満 オ＝80%以上

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
3. 施設等整備	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	本市の代表的な観光地であり、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技会場となった江の島において、同大会の開催を契機に、今後ますます国内外からの注目を浴びることが想定されることから、ポストコロナにおける観光客の受入体制の充実が求められている。	
他市等の事例		
市民ニーズ	把握方法	観光客実態調査、藤沢市観光振興計画見直し検討会議、藤沢市観光振興計画策定におけるパブリックコメント
	把握内容	観光客の実態
	対応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢市観光振興計画の基本方針に「観光客を迎えるおもてなしの体制づくり」のほか、「外国人観光客誘致の推進」、「東京2020大会の開催地としてのおもてなしの体制づくり」を掲げ、各基本方針の中に、戦略プロジェクトとして位置付けている。</li> <li>・湘南江の島魅力アップ・プランに「観光客が楽しめるおもてなしの体制と拠点づくり」として位置付けている。</li> </ul>

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	観光客の利便性向上を図るため、大人から子どもまで幅広く楽しめるような施設へのリニューアル整備（第一工区）を実施することで、新たなライフスタイルの提案とシティプロモーションの融合、昼間の誘客促進による観光客の分散化や消費型観光を促すための環境整備に取り組んだ。	
今後の方針	まちづくりテーマ	④ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	現状維持
	本市を代表する観光施設である江の島サムエル・コッキング苑については、平成15年度のリニューアル整備を機に、夏中心の観光スタイルから「通年型観光地化」へ大きく転換した一方、人気イベントの実施時期以外や昼間の入苑者が少ないことに加え、施設全体の有効利用や滞在時間の短さなど、観光施設としての課題が見えてきた。 また、昨今のコロナ禍により、市内経済が大きな影響を受けるなど、ポストコロナを見据え、施設の魅力を向上させる必要があることから、経済の早期回復の起爆剤とするため、江の島サムエル・コッキング苑再整備については、第3次藤沢市公共施設再整備プランにおける第3期短期プランに位置付け、令和3年度及び令和4年度に整備を実施する。	

9. 部長確認欄

部名	経済部	氏名	饗庭 功	確認日	2022/9/2
----	-----	----	------	-----	----------